

平成 28 年 1 月の市民の声（全 3 通のうち 3 通）

市民の声の内容と、そのお返事の一部を紹介します。

◇路線バスへの要望

【ご意見・ご提案など】

帰省の度に思いますが、以下のとおり路線バスが使いづらいため関係会社に改善を促すよう要望します。

＜バスと J R 接続の改善＞

一例として六日町駅→イオン六日町店の路線を挙げます。J R との接続を考慮すると、以下のとおり現行ダイヤより 5～20 分程早めてもらう必要があります。駅を起点とする他の路線も、同様に見直しが必要かもしれません。

六日町駅 発 12 : 00→11 : 55 13 : 00→12 : 50 14 : 00→13 : 35

15 : 00→14 : 50 16 : 00→15 : 45 17 : 00→16 : 40

六日町駅 着 15 : 35→15 : 24 18 : 58→18 : 48

ことインフラについては、市民だけでなく帰省・観光客の利便性にも関わるので改善を強く要望します。

（平成 28 年 1 月 4 日）

【お返事】

路線バスは、民間の交通事業者が運輸局の許可を受け、事業計画に基づき運行しています。一般的に路線バスの目的としては、地域と地域を結び、通勤、通学の足としての機能を果たすことが大きな役割となっています。このためバス時刻表の設定にあたっては、鉄道の主要駅で列車との接続がある程度考慮されているものと思われます。

しかし、頻繁に列車のダイヤ改正が行われると、バス車両や運転手の配置、時刻表掲示の更新、運輸局への届出などの手続きがあり、対応できない場合もあります。

また、要望の一例としていただいた、六日町駅 - イオン六日町店のバス路線については、特定の施設を主眼とした路線であるため、列車との接続をそれほど考慮していない時刻表設定になっているかもしれません。

いずれにしても、バスを含めた公共交通の維持存続は、地域のまちづくりに大きくかかわってきます。路線バスの利便性が向上し、利用者の増加が図られるように、いただいたご意見をバス事業者に伝え、地域の公共交通全体がより良いものとなるよう努めてまいります。

(担当：都市計画課)

問合せ：秘書広報室 ☎773-6658

◇市長の議会答弁について

【ご意見・ご提案など】

12 日にあった F M 雪国の放送の中、岡村議員への答弁で「質問の内容がわからない」と言いながら「正確に答弁する」と言われました。呆れてラジオのスイッチを切りました。

- 1) 市長の答弁は、日本語として正しいのですか
- 2) 議員の質問内容は事前提出されています。担当職員は内容も解らず、岡村議員に確認せず答弁を作成し、市長に報告したのですか
- 3) 市長は、なぜ質問内容がわからないまま議会で答弁したのか。岡村議員になぜ確認しなかったのか。(担当職員を通してでも)
- 4) その場でのアドリブの答弁か。市長答弁の中に、ネガティブな事ばかり等の発言あり。それにつられて、つい言ってしまったのか。
- 5) その議会に出席していた議員や市の幹部職員は、このような市長の発言は問題であると指摘しなかったのか。

よろしくご回答願います。

(平成 28 年 1 月 12 日)

【お返事】

F M 放送を通じて 12 月定例議会の一般質問をお聞きいただき、ありがとうございました。

議会でのやり取りには、これまでのお互いの発言内容などを勘案した答弁をすることがあり、F M 放送を聞くだけでは発言者の真意が伝わりきらないことがあります。

今回、岡村議員からの質問通告は、別紙の 4 項目でした。

しかしながら、実際の議場での質問はこれを踏まえつつも、これまで岡村議員が「安易な増工が行われているのではないかと主張してきたことを再度言及し、「増嵩工事において改ざんがあるのではないかと指摘をしましたが、私は納得しておりません」と述べるなど、これまで再三答弁してきた事案を蒸し返すような発言が目立ちました。

このため、「なかなかどういうことをおっしゃりたいのか（岡村議員が質問を通じて本当に主張したいものが何か）よくわかりませんが」発言しました。しかし、「(通告された質問事項には) 明快にご答弁申しあげますのでよろしくお願いいたします」と続けたわけです。

岡村議員との過去の質疑・答弁を聞いていた議長、議員、執行部職員には、この答弁で十分伝わったのですが、議会を傍聴されていた市民・F M の聴取者にはわかりづらかったことと思います。

こうして文章化してみれば言葉不足を感じますが、議場での答弁は瞬時に判断が要求されるものです。傍聴者やFM聴取者のことを気にかけて、慎重に言葉を選ぶゆとりはありません。

今後は、一層伝わりやすい言葉を選ぶよう心がけますが、こうした状況もご賢察いただきますようお願い申し上げます。

(担当：秘書広報室)

問合せ：秘書広報室 ☎773-6658

◇浦佐駅の周辺再開発（特に駅前駐車場の確保・整備）について

【ご意見・ご提案など】

新幹線が開通し40年を経過しても、新幹線駅前開発が全国で最低ランクの姿に接し、南魚沼の住民として意見・提案を申し上げたい。

浦佐地区は、病院・高校・大学・美術館・大公園があり、医療や教育の中心として今後も発展が期待されている。しかしながら、その基盤として新幹線・交通網の要である浦佐駅前の駐車場は見るに堪えない。病院等に勤務される医師・職員・住民は、行政対応に大きな不満を持っている。

南魚・北魚・十日町地域の中核となるべきだが、新幹線を利用しようとしても満足に利用できない。南魚沼市政への期待が大きいのに、応えていない。議会議事録・市報・住民の要望書等、ほとんど駅前開発に対応していないし、議論も提案もされていないと思われる。

早急に新幹線駅前再開発プロジェクト委員会を設置すべきだ。また、全国の新幹線駅前開発を学習し、住民に公開すべきである。故田中角栄氏のような、実行力のある行政担当であってほしい。

(平成28年1月20日)

【お返事】

新幹線が停車する浦佐駅を中心としたまちづくりは、地域の歴史的、空間的な特徴をよく理解し、特徴を最大限伸ばしていくような投資が必要になると考えています。

浦佐駅周辺は、上越新幹線の開業を見据えて区画整理事業が行われ、駅近隣を商業地域、その周辺を住居地域に指定し、均衡ある土地利用が進むことを目指してきました。しかし、思ったようには土地利用が進まず、新幹線開業後にあった店舗等も撤退してしまい、今のような状況となっております。

浦佐駅周辺の駐車場整備につきましては、今後のメディカルタウン・CCRC構想やITパークなどの動向を見ながら、バスなどの公共交通の利用を考慮したなかで、その必要性を十分に検証しながら進めていく必要があるものと考えます。

また、本市と魚沼市、湯沢町が連携して地域づくりを進める魚沼地域定住自立圏構想においては、本市が中心市として地域課題に対応していく必要があり、新幹線を含めた公共交通機関の利用促進を検討してまいります。

駅前の再開発やまちづくりについては、地権者や関係者が多数にわたり影響が大きいことから、行政だけが主導して行うのではなく、地域の皆さんのまちづくりについての意識醸成を図りながら、その活動と連携し、地域が中心となり十分

議論と検討を重ねていく必要があります。

既に浦佐地域の商工会では、メディカルタウンとしてのまちづくりに取り組んでおり、先進地を視察するなど研究を進めています。ここに行政も参加しながら、まちづくりの方法を検討しているところです。いろいろな事例を研究し、情報を得ながら再開発まちづくりについて検討してまいりますので、今後もご提言をお願い申し上げます。

(担当：都市計画課・企画政策課)

問合せ：秘書広報室 ☎773-6658